

新庁舎建設基本計画が まとめました

新庁舎建設予定地（日石町）

新庁舎の建設は、これまで地域懇談会・広報かしわざき・市のホームページ・パブリックコメント・市民説明会などを通じて、市民の皆さんに説明し、ご意見をいただきました。このたまりましたので、その内容をお知らせします。

計画策定の背景と目的

現在の市役所庁舎は、建設からまもなく50年となり「建物の老朽化」「窓口が分散していて不便」「来客者用駐車場が分散していて使いにくく」「防災機能が不十分」などの問題があります。

これらを解消するため、より機能的な庁舎の建設が必要であると判断しました。

現在地での建て替えが困難であることから、日石町の文化会館アルフォーレに隣接する場所に建設することにして、議会から承認を得ました。この場所は、

中心市街地で一定の面積が確保でき、公共交通の利便性もよく、周辺施設との一体的な活用と災害対応が可能です。

計画策定に当たっては、学識経験者と市民の代表12人で構成される新庁舎建設検討委員会が6回開催されました。その検討結果をもとに、基本計画（案）を作成し、市長に提言いただきました。市議会からも提言書をいただきました。市は、それらの内容を踏まえて、基本計画を策定しました。

建設に必要な財源の一部に、合併特例債（※1）も利用することが有利であると考え、その発行期限である平成32年度の完成を目指して建設を進めていきます。

新庁舎の機能・性能

新庁舎の目標すべき姿として、3つの基本理念と、基本理念の下に、8つの基本方針をまとめました。

※1 合併した市町村が、新市建設計画に基づいて行う事業に要する経費などの財源にすることができる地方債で、その借入返済額の70%は、普通交付税により、国から措置されます。

建設予定地の諸条件への対応

▼都市計画
建設予定地の用途地域は商業



▲新庁舎建設検討委員会
が市長に提言

新庁舎の機能・性能

◆3つの基本機能

行政運営に関わる機能

- 行政運営・管理機能

- 防災・危機管理機能

- 窓口機能

- 案内機能

- 相談機能



議会活動に関わる機能

- 議会機能

- 情報提供機能

市民サービスに関わる機能

- 利便性向上機能

- ふれあい交流機能

- 情報受発信機能



◆4つの性能

- 耐震性能



- 環境性能



- ユニバーサルデザイン・バリアフリー



- セキュリティ・防犯対策

◆規模の想定

建物全体の床面積(車庫を除く)

14,000 m²程度

新庁舎の目指すべき姿

《3つの基本理念》

- 市民が安心して暮らせるよりどころとなる庁舎
- 協働によるまちづくりの拠点となる庁舎
- さらなる未来をめざす柏崎のシンボルとなる庁舎

《8つの基本方針》

市民

市民にとって分かりやすく利用しやすい庁舎

市民がふれあい交流する庁舎

都市

中心市街地活性化の核となる庁舎

環境

周辺環境と調和のとれた庁舎

建築物

高い防災機能を備えた庁舎

地球環境の保全に配慮した庁舎

機能的かつ維持管理が容易な庁舎

変化に柔軟に対応できる庁舎

地域で、市役所庁舎の建設が可能な地域です。
柏崎駅前地区地区計画で、建築物の高さは35m以下に制限されていますので、庁舎はそれ以下の高さになります。

▼災害など

柏崎駅周辺は、過去に幾度か浸水しましたが、鵜川の河川改修、柏崎雨水ポンプ場の完成などにより、それ以降の浸水被害は発生していません。

しかし、ゲリラ豪雨など異常気象に対応するため、地盤や床高を上げるなどの対策を講じます。

隣接する文化会館アルフォーレの建設時にも、同じように検出され、適正に処理を行いました。

▼土壤

新庁舎の建設

置られますので、市の実質的な負担は30%です。
このよつた有利な財源を積極的に活用し、後年度の負担の抑制に努めます。

▼概算事業費

70～75億円

※駐車場や植栽などの屋外の工事、備品、引越費用を含みます。

▼財源

建設に必要な財源は、できるだけ自己資金である一般財源、

事業スケジュールは、下の表のとおりです。平成32年度中の完成を目指します。

▼事業スケジュール

《事業スケジュール》

| 年度(平成) | 計画 | 設計 | 建設 |
|--------|------|------|--------------|
| 27年度 | 基本計画 | | |
| 28年度 | | 基本設計 | |
| 29年度 | | 実施設計 | |
| 30年度 | | | 建設工事 引っ越し |
| 31年度 | | | |
| 32年度 | | | 引越 |

《自己資金》

一般財源

庁舎整備基金 ※2

地域振興基金 ※3

《借入金》

合併特例債

県地域づくり資金 ※4

- ※2 市が、庁舎を整備するためには、平成26年から積み立てている基金
- ※3 市が、将来の地域振興のために積み立てている基金
- ※4 市が、地域づくりのために行う事業に必要な経費を、県が貸し付ける資金

また、現庁舎跡地も、中心市街地活性化の一助となるような利活用を検討していきます。
新庁舎建設に伴う中心市街地をはじめとするまちづくりの方針は、平成28年度以降も引き続き検討します。

その他、借入金（市債）の利用を考えています。なお、市が借り入れる主な市債は、合併特例債です。その借入返済額の70%

新庁舎建設に伴う
中心市街地の方向性
柏崎駅に近い、中心市街地に新庁舎が移転することで、文化会館アルフォーレと、駅前公園との一体的な活用による災害対応が可能となり、防災機能が高まります。さらには、多くの市民の皆さんのが集まる拠点が形成されることになります。

歩いて回れるような中心市街地の在り方を考え、中心市街地活性化に向けた取り組みを進めます。



文化会館アルフォーレ

